

山行報告書

通算山行NO NO・193 報告者 渡辺真理子

年月日 2000年10月28日(土曜日) ~ 年10月29日(日曜日)

山行名 レイホーアールローストカレッジ (72回)

山名 霞沢岳 (2646m)

この山のセールポイント 穂高連峰のすばらしい展望台

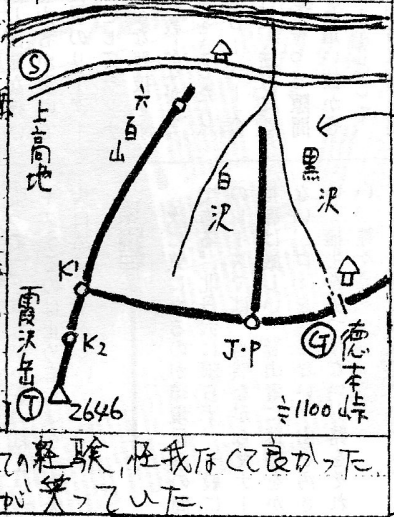
コース及タイム (10月28日 天候(晴))
 修善寺2:00 - 権杖3:00 - 高エ3:50 - 上高地7:50 -
 バスタシル8:20 - 明神9:05 - 徳本峠10:45 - J.P.11:40 -
 K.I.14:00 - K2頂上14:20 - 徳本峠小屋17:50

標高差 Δ上高地 - 霞沢岳2646 ≒ 1900m
 体力度 1 2 3 4 ⑤ 6
 技術度 1 2 ③ 4 5 6

走行距離 ~ Km 展望度 1 2 3 4 5 ⑥

参加者・役割	CL 後藤隆徳 53 背のすばらしい山登り仲間 後藤歌子 56 K.I. 下 強かった
	大根田元男 64 小屋の中霞沢岳の山頂 片山森男 62 途中リタイア残念無念
記録	渡辺真理子 50 K.I. 強いわね 今朝はいい天気よ
会計	加藤秀子 51 初雪がふり 今朝はいい天気よ
医療	渡辺幸子 50 K.I. のけり 楽しい下山 藤巻子 59 頂上にて 良かった
救助	鈴木康人 50 スリに遭った 会員 21名・一般 3名・全体 24名

- 第一目
- 佐藤雅道 69 事故後初登山 心配(下りマズ)
 - 石川博俊 63 3ヶ月前の山登り 久しぶりで
 - 河合依代 53 K.I. の登り 強かった 意地で登り 下り
 - 藤内敬子 43 P. に登頂して 嬉しかった
 - 岸野輝雄 53 一日の歩行最高を記録
 - 志子 54 K.I. は遠かった
 - 鈴木光世 58 バテたのが 無難な初め
 - 大庭寿子 50 苦しくて 途中で 挑戦した
 - 岩井反子 47 紅葉 初雪 穂高 絶景に満足
 - 奥山ひびき 52 もう一度登りたい 魅力ある山
 - 白鳥洋子 52 皆さんの励み しみじみ うれしかった
 - 渡辺 59 頂上直下 顔から 汗が 山頂初めの 経験 怪我なく 良かった
 - 羽根田 60 K.I. P. の登り 四つん這い 山頂から 笑っていた



真夜中のお祭りでバスの中は寝息。Y&Kオ・ハ・ヨ・ウ.....
 目覚めればお祭りと紅葉の中である。
 夏ほどではないが、喧騒のバスターミナルを体験をし、抜け出る。
 予定変更して、今日中に霞沢岳ポストン。何とかも、頑張りねばと意気込み
 レイホー賑やかな隊、明神で一息後、白沢の橋を右に折れ、徳本峠へ。
 上高地盆地用の霞沢岳は、北西の焼岳ととも、衛兵の姿を存在下に。
 追力ある穂高連峰を背に、何とかせうたく下り。
 「あのソングがういぬ」と、屏風岩を和藤さん何度も振り返る。
 分岐に荷物を取り、深い樹林の中、急登をジグザグに登る。
 少し楽に思った、J.P. 山頂東端の鳥の谷に落ち、展望よし。
 ここで隊再編制、谷に落ちてお時は引越下り、と会長の指示。
 右へカーブしながら長い尾根道を緩やかに下り、小池を通り、
 樹林が切れると、六百山からの尾根にぶつかる。この動物の定庫だ、
 ダケカンバを抜けると、稜線に出た。

左に霞沢岳側の大がし。正面から左へK1、K2、頂上と姿を現わした。カッパのいっすんは、こじんたんは初めて。しかし、遠く、穂高連峰が眼下に広がる斜面をトラバースしてK1への直下。高さ200mの登りにかかる。頭上にはびる霧の溝をよつんぼいで登るのだが、苦しくて月も絶え絶え。ハイソックスの中に見える、連峰の飛雪が強いぞと書いてある。

しかし、ここを下るとかと思うと、ソックスの裏がやぶるまでだ。//
まだか？おたよ！やったよ！K1だよ！！

「ワア〜可憐い、としか言えない。たのしい大パノラマ。足もと深く、帝國村の奥の崖根がシルハンチックだ。ゆっくりと360°自転した。もういっすんは、後から来た念長の激にK2をめざすのが雪が舞い降りた。残念だが、穂高と同じく、頂上は曇ってなかった。今夜は、ゆっくりと挑みた。写真は撮り、靴を脱ぎ下り、かかる。登り以上に慎重に、濡れた足には恐怖だ。ハイソックスの裏は映る雪、紅葉と、そのラストが幻想的と言いたうか。

厳し〜冬山の表情をまじまじと見せつけられた。
雪から雨に、靴はばりか下りた中、濡れまみりの荷物に分け合のロープで助けるのを、何も手も出せず、じで励まし〜じで下る。ヘッドランプを頼りに暗闇の中、歌声は励まされ、かほい合ひ、仲間って、いいなあ〜。

片山エムのライトに迎えられた時は、陣んじにノックした。
たっかしの趣のランプの宿で、津主人の話と夕食に身もじも暖まった。

山名			報告者	佐野雅道	
この山の セルフポイント	カラマツの紅葉も雨にぬれず...				
コース 及 天候 タイム	10月29日	徳本峠小屋S 07:30 明神 08:30~09:10 上高地 9:50~10:15			
		沢渡上高地ホテル 11:00~12:45 松本IC 13:40 甲府南IC 15:20 長野 17:30			
標高差	▼S 徳本峠 2140M G 上高地 1500M	≠ 640M	体力度	1	2 3 4 5 6
			技術度	1	2 3 4 5 6
			自然度	1	2 3 4 5 6
第 2 日 目	<p>昨日の雨は夜半に雪に変わるかと思っていたが、トタン屋根をたたく雨音は一晩中続き、今日も雨空が覆っている。行程は昨日と打って変わり上高地へ下るのみ。晴れていれば、ムル気分です歩けるのだが、天候はあるがままに受け入れるしかない。</p> <p>小屋の主人を囲んだ記念写真を撮影し出発。1時間で明神池。何人かが見学に出かけたが穂高神社の神域とかで250円の拝観料が必要。すでに紅葉の盛りは過ぎていたが池の景色は庭園の趣がある。このような美しい自然を拝観料を出さないと見学できないとはいささか抵抗を感じる。此処から観光客が目にはいるようになった。</p> <p>上高地のターミナルに急ぐ。途中猿の家族連れに逢う。人慣れしているようだ。野生の動物は人が干渉するのは避け野において置きたいと思う。</p> <p>紅葉は沢渡周辺が盛りに見えた。島々谷を訪れることを心に秘め帰路に着く。</p>				

K1ピーク ~ 霞沢岳

藤内 敬子

K1ピーク 14:00着。朝会長より山頂タイムリミット15:00と聞いていたのでリュックをデポし、高岡さんの後を走る様に追いかけた。

K1から見た山頂は遠く感じられたが、歩き出すと、空身のせいか、思った以上に早く山頂に立つ事が出来た。14:20着。(9名)

右側に鋸の刃の様な ジャンタルムの稜線が目の高さに見え、人を寄せつけないすじみがあった。(カをつけて、必ず挑戦したい山だ?)

皆で握手乾杯、記念写真をしているうちに、小雪が降ってきたので、また走る様にK1ピークに戻る。すると、レスキューだからと、鈴木(康)さんが寒風の中、待っていてくれた。本当に有難う。

霞沢岳 K1 (別名きつい)
ピークの思い出
 2000年10月29日 一般参加 羽根田富治

先ず初めに今回の山行に同行させて戴いて有難う御座いました。
 数々の山行の思い出の1つになること間違いないと思う
 粉雪の舞う霞沢岳、ランプの宿 徳本峠小屋 等

【貴重な体験】

星ガラスがハイマツを低く飛んでいた登りとは違って
 粉雪が乱飛し始めた2時30分に頂きに立つ、峠までの帰りの道のりを考えると時間的余裕がない、数枚のジャケットを押し、K1ピークまで戻る、粉雪は横殴りの吹雪きに変ってきた、遠くの山は完全に雪山に変わりつつうす暗い山肌になっている
 回り一面と、シャツの上にも粉雪が積もり始めた
 ここで、自分の判断のミスが後に尾を引く結果になる
 小屋まで5時に辿り着けば何とかかなと考えると、雨具と懐中電灯を装着する数分をケチッた為に、相変わらずの吹雪きと、回りの薄暗さに気持ちのゆとりがなくなってきたが、取敢えずジャンクションピークまで頑張ろうとお互いに気合をいれ声を掛け合う
 全身の疲れは気力でカバーが出来ている感じ、
 ジャンクションピーク回りはもう真っ暗で吹雪きは雨に変わっていたが雨具の装着はムリ、懐中電灯を取り出しひたすら下山
 山の歌『いつかある日』が自然に口から出ている
 いま思えば、あの時の判断の甘さが後悔されるが、
 今後の貴重な体験が出来たと思えば、山もまた楽し

※ 日本にもK2があった!